

-順応的管理による持続可能な治水と環境の両立を目指して-

< 論点整理 >

順応的管理

様々な不確実性を踏まえ、現状把握を出発点としてモニタリングを継続的に実施し、取組の進捗を評価しながらPDCAサイクルに基づき管理

河道管理を取り巻く現状

- ・人的リソース等の制約
- ・予防保全型の管理の必要性
- ・ネイチャーポジティブ
etc.

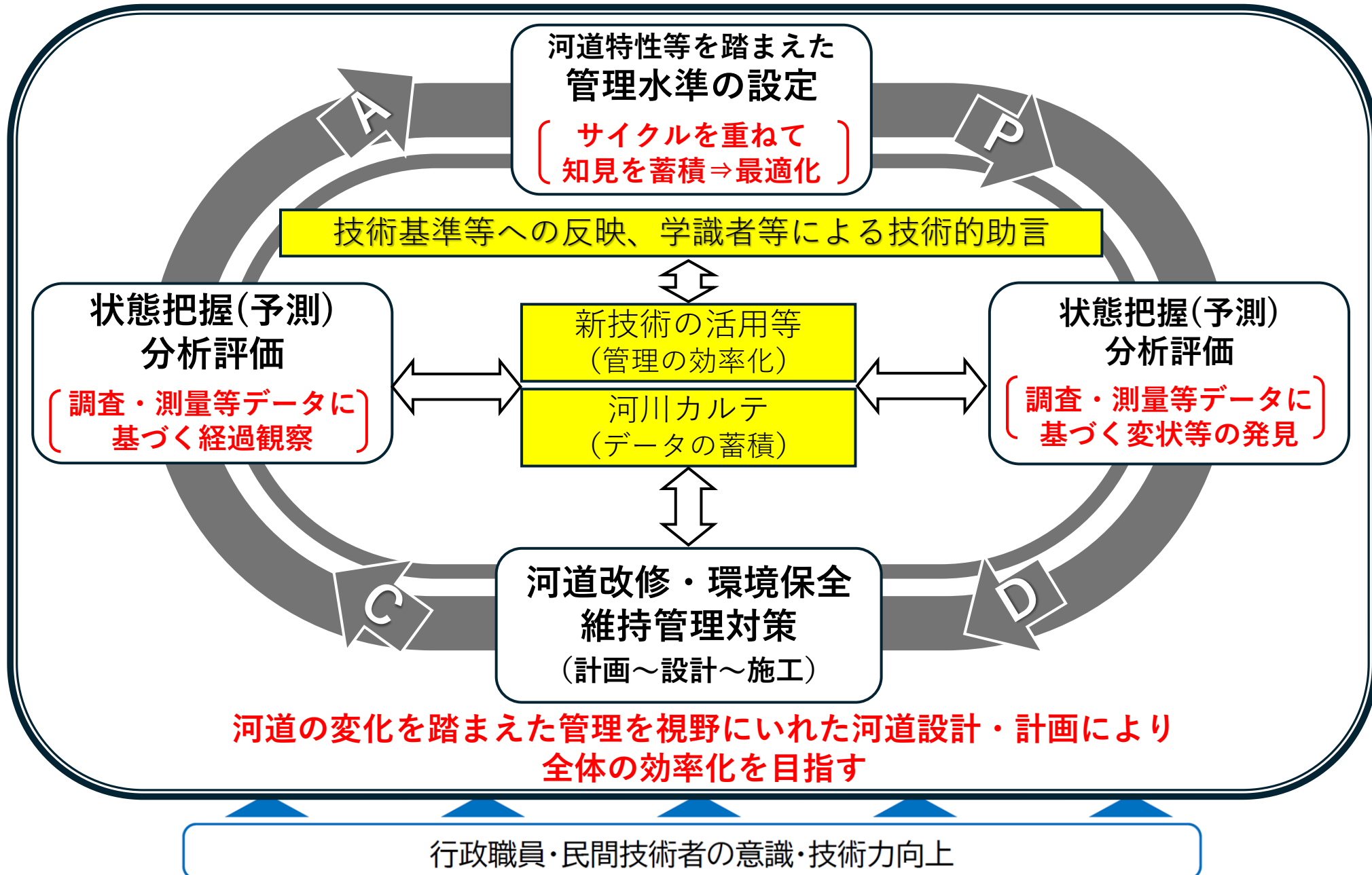
順応的管理をより戦略的・効率的に実施していくことが必要

※河道の変化を前提とし、社会情勢を踏まえて戦略を施す

- PDCAサイクルに基づく管理水準の最適化
- 新技術の活用等による管理手法(モニタリング、予測・評価)の効率化
- 治水と環境が一体となった目標設定・河道設計手法の構築

順応的な河道管理のPDCAサイクル※

※ 河川砂防技術基準 維持管理編（河川編）をもとに、河道管理に着目して整理



< 討議① >

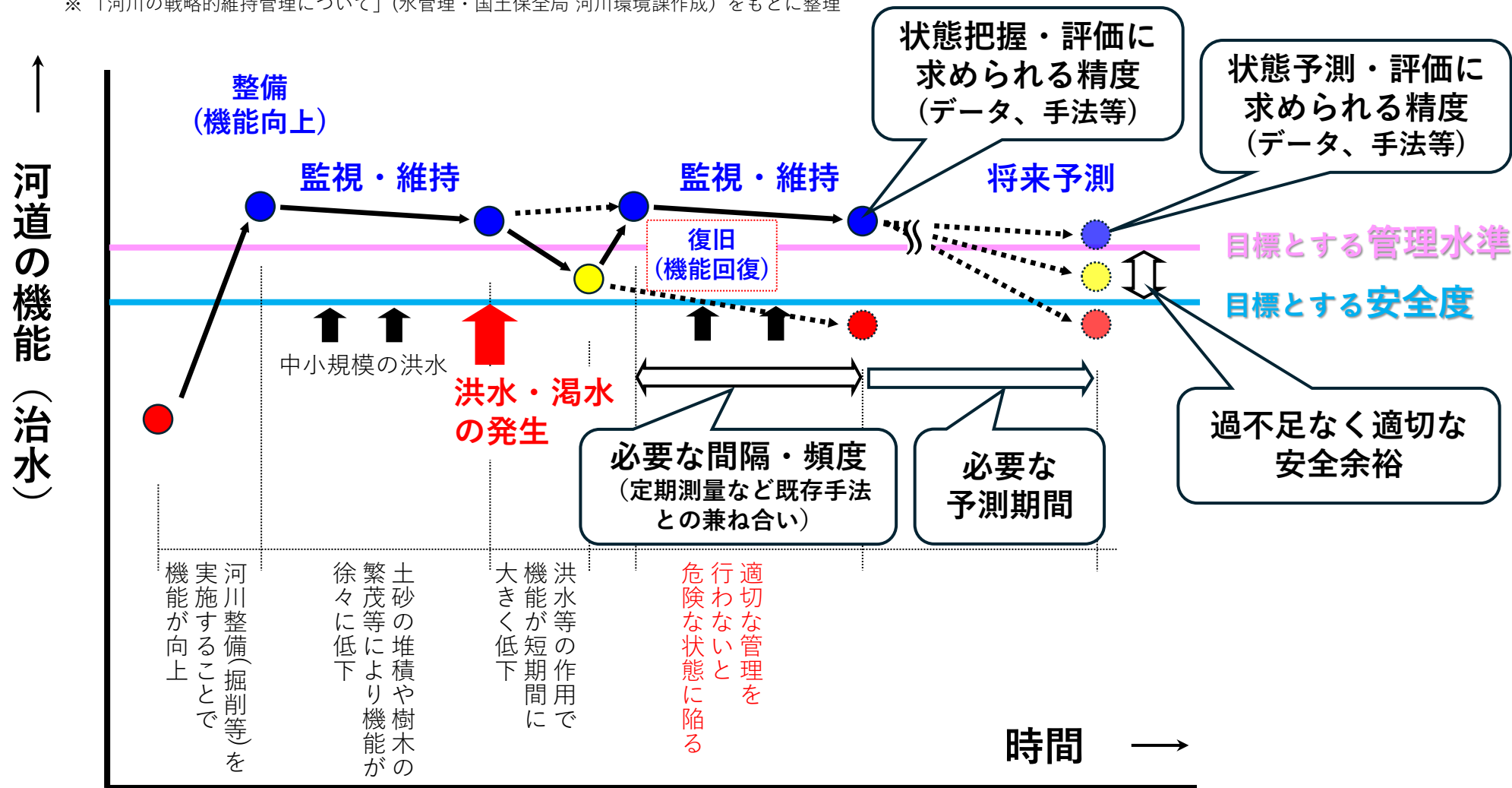
社会情勢・技術革新を踏まえ

順応的管理をより戦略的・効率的に動かすために必要な

管理水準・目標や状態把握・評価・予測のリクワイアメントとは

順応的河道管理のイメージ※とリクワイアメント（治水を例に）

※ 「河川の戦略的維持管理について」（水管理・国土保全局 河川環境課作成）をもとに整理



< 討議② >

治水と環境が調和した河道管理を進めていくために
P D C Aの各段階で求められる視点とは

(総合評価のあり方、データの連携や補完、一体的な予測・評価など)

治水

河道特性を踏まえ、目標とする流量を安全に流下
(流下能力、浸透・侵食等)

水位・流量の関係性を踏まえた河床形状、植生繁茂状況 など

水位・流量観測 (出水時)
縦横断測量 (5年に1回)
洪水流・河床変動解析 など

維持：管理水準を下回る場合
改修：河川整備計画策定後

【総合評価】
(管理水準)

【機能レベル評価】

【状態管理の指標】

状態監視、予測・評価の
実施項目・手法、頻度

掘削・伐採等の
実施タイミング、頻度

環境

河道特性を踏まえ、目標とする自然環境や生物を保全
(生息場等の環境定量目標)

植生やハビタットの状況など
画像解析、環境DNAなど
洪水流、河床変動解析、
植生消長、生息場評価など
(毎年～5年または10年に1回)

維持：外来種の駆除等が必要
と判断された場合
改修：環境目標策定後